

## 地域に残された資料（だ）からみえるもの

—神戸市内の歴史資料調査から—

講師：井上 舞

### 自己紹介

---

- \* 2012年度より神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターで勤務
- \* 専門は日本中世文学・播但地域史
- \* 兵庫県内を中心に、地域資料の保全・活用・継承・防災に取り組む

### 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

---

- \* 1995年に発生した阪神・淡路大震災で被災した歴史資料の救出・保全活動を契機に、2002年度に神戸大学文学部内に設立
- ① 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力
- ② 災害時の歴史資料の救済・保全
- ③ 地域歴史遺産を活用できる人材の育成
- ④ 地域の歴史文化をめぐる情報の共有や交流の促進



### 地域に残る歴史資料

---

- \* 古文書：証書類・日記類・書簡類、その他多数
  - \* 写真・絵葉書：風景・行事・人物、等
  - \* 建築物：神社・仏閣・村堂・学校・公民館・民家、等
  - \* 石造物：道標・石塔・石仏、等
  - \* 民具：衣・食・住・生産・交通、等、日常生活に関わる諸道具
  - \* 無形のもの：民俗芸能・伝統行事・言い伝え・昔の話、等
  - \* 最近のもの：自治会関係資料・震災資料・コロナ関係資料、等
- 「資料」と認識されないまま、放置されているものも多い

### 地域の歴史と歴史資料

---

- \* 文化財指定を受けているもの、そうでないもの関係なく、地域に残る歴史資料は、地域の歴史を明らかにするための大切な手がかり
  - \* 自治体史の叙述・自治体史に採録された資料だけが、「地域の歴史」ではない
  - \* 近年の出来事・近年の資料も、歴史を知るための大切な資料
- 地域の歴史を具体的に明らかにしていくためには、その根拠となる歴史資料が必要であり、これを守り継承していくことが重要

## 地域資料の危機

---

- \* 地域社会の変化（過疎化・少子高齢化・住民の意識の変化等）
- \* 平成の大合併をはじめとする行政機関の改組・再編成
- \* 大規模自然災害の発生
- 関心が薄い、内容がわからないなど、人と資料との距離が開くほど、資料滅失の可能性は高くなる

## 地域歴史遺産という考え方

---

- \* 「地域歴史遺産とは、研究のための歴史資料であるというその性質と、そこから明らかになる内容に着目するというよりは、残された「もの」を巡る地域における人と人との持続的な関係に焦点を置く概念なのである。」（奥村 2014）

## 地域資料の保全と活用

---

- \* 地域住民が主体となって、地域の歴史資料を「地域歴史遺産」として、地域の中で継承していく方法を、地域の実情に即して考えていく必要性。
- \* 地域住民と協働した歴史資料の整理作業の展開
- \* 地域住民が主体となって地域資料を継承していくための仕組み作り

## 地域に残された資料（だ）からみえるもの

---

- ① 襖の下張り文書からみえる地域の歴史（神崎郡福崎町）
- ② 神戸市北区での資料調査
- ③ 神戸ユニオン教会資料の調査

## おわりに

---

- \* 地域の歴史を知るためには、地域に残された史資料が必要。残っている情報が多ければ、より具体的に地域の歴史が見えてくる。
- \* 地域に残された資料は、「どこにでもあるけれど、そこにしかないもの」。それぞれの地域の人たちが生きた証。小さな歴史（史実）の積み重ねが、より豊かで具体的な歴史像を作っていく

### [参考文献]

- ・ 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』岩田書院、2013年
- ・ 奥村弘『歴史文化を大災害から守る－地域歴史資料学の構築』東京大学出版会、2014年
- ・ 奥村弘・村井良介・木村修二編『地域歴史遺産と現代社会』神戸大学出版会、2018年
- ・ 天野真志・後藤真編『地域歴史文化継承ガイドブック 付・全国資料ネット総覧』文学通信、2022年
- ・ 長谷川伸「地域史料の「保存」と「利用・活用」を考える」（『法制史学』58号、pp.33-40、2002年）